



わの川だより

あおりの川を愛する会

わの川だより 第25号

発行日：令和3年3月31日

「東日本大震災を振り返って」

青森県県土整備部河川砂防課長 古川 達夫

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響で様々な行事や機会が失われました。

また、コロナ禍においても自然災害は容赦なく襲って来るという現実も思い知らされました。この原稿を書いている数日前にも、宮城県と福島県で震度6強を記録する地震が発生し、東北の巨大地震リスクが今もなお続いていることを再認識しました。

東日本大震災から今年で10年になります。川の話からは少し外れますが、あの日自分が体験したことを書いてみたいと思います。

平成23年3月11日金曜日、上司の代理で急遽仙台市での会議に出席することになり、日帰りの予定で東北新幹線に乗車しました。

14時30分頃仙台駅に着き、徒歩で会場に向かう途中の14時46分、突然地面が大きく揺れ、立っていられなくなってその場にしゃがみ込みました。経験したことのない揺れで目の前の建物が大きく左右に動き、見る見るうちに壁に亀裂が走ります。一瞬、建物が倒れてくることを覚悟しましたが、幸い日本の建物は丈夫でした。

揺れが収まり駅の方に戻ってみると、仙台の街中は大きな被害もなく人々の様子は落ち着いていました。しかし、新幹線は止まっていて当面青森に帰れないことを覚悟しました。

何とか駅前のホテルのロビーで夜を明かせることになりましたが、日帰りの予定だったので着替えもなく、ATMも止まっているため財布には3千円しかありません。携帯は通じず、コンビニにもおにぎりなどの食べ物はありませんでした。

夕方から冷え込み、夜には雪がちらついてきました。一晩中余震が続く中、ラジオは海岸に200体程の遺体が打ち上げられていることを伝えています。当時はまだスマホが無かったため、沿岸部で何が起きているのかまったくわからず不安な一夜を過ごしました。

翌朝、鉄道、バス、タクシーとあらゆる交通手段を当ってみました。青森まで帰る方法はありませんでした。

10時頃ホテルから公共の避難場所に移動するよう求められたため、避難場所になっている近くの小学校に移動しましたが、既に玄関まで人が溢れ、食糧や毛布の配給もいつになるかわからないとのこと。他の避難場所を探すことも考えましたが、このまま時間が経てばますます状況が悪くなると思ったので、やむをえず市内の外れにある知人の実家を頼ることにしました。交通機関は使えないので覚悟して長い距離を歩き出しました。

途中バス停に並んでいる人達がいて、いつ来るかわからないが待っているとのこと。一緒に並んでみるとほんの20分程度でバスが来ました。なんとかバスの終点まで着きましたが目的地はまだ先です。タクシーがいたので、所持金の2千円で行けるところまで行こうと乗ったらあっけなく目的地に着いてしまいました。地震発生の翌日でもしっかりと機能していた仙台の交通機関に感謝しました。

目次：

「東日本大震災を振り返って」	P1
駒込ダム本体工事見学会	P4
イワナの産卵床づくり	P5
今年度 中止・延期となった事業	P6



知人の実家に向かう前に妻と携帯がつながったので、無理を承知で仙台まで車で来てくれるよう頼みました。とりあえず行ってみるという返事でしたが、その後はまた携帯がつながらなくなり、逆に妻の安否が心配になりました。

妻は夜8時頃仙台に着きました。碓ヶ関ICで高速を降りて仙台まで一般道を走ってきたそうですが、信号や街灯が消えていて怖かったそうです。あの状況で事故や通行止めもなく仙台まで辿り着けたのは運がよかっただけかもしれません。

次の日、無事青森まで帰ってくることができましたが、この3日間は、大規模災害時にどのように判断し、どのような行動を取るべきかを身をもって考えさせられた貴重な経験でした。

あおもりの川を愛する会では、津波講演会を平成28年度から毎年開催していただいています。佐々木先生の講演や迫力ある津波CG動画は、地域の参加者から毎回好評を得ています。残念ながら今年度はコロナの影響で延期になってしまいましたが、今後も地域の防災意識向上のために続けていただきたいと思います。

東日本大震災で被災した五戸川・奥入瀬川・明神川の地震・高潮対策河川事業が令和2年度で完了し、また今年4月には日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデルによる新たな津波浸水想定公表が予定されるなど、本県の津波対策はさらなる安全・安心の向上を目指してまいります。

あおもりの川を愛する会の皆様には、今後とも河川行政に対し厚いご支援をお願いするとともに、コロナの感染が収束し、一日も早く従来の活動ができる日が戻ることを祈念しまして巻頭の言葉とさせていただきます。



(五戸川地震・高潮対策河川事業)



津波八戸で最大26メートル超

日本海溝巨大地震 政府が想定

本県沿岸全域に襲来

東北から北海道の太平洋沖にある日本海溝・千島海溝沿いで巨大地震が起きた場合、本県沿岸部に東日本大震災を上回る規模の津波が襲来するとの想定を21日、内閣府の有識者会議が公表した。県内で最大津波高が最も大きかったのは八戸市の26・1メートル。津波は日本海や陸奥湾の沿岸市町村でも観測されるとされ、青森市では最大5・4メートルに達する。

(若松清巳)

有識者会議は2015年から、同海溝沿いで発生する最大級の地震・津波の規模などを検討。過去6千年間の津波堆積物や同海溝で発生した津波の履歴などを根拠にモデルを構築した。この結果、日本海溝ではマグニチュード(M)9・1、千島海溝ではM9・3と、11年3月の東日本大震災(M9・0)を上回る地震(M9・0)を上回る地震

日本海溝・千島海溝 日本海溝は北海道から房総半島の東にあり、千島海溝は十勝沖から千島列島沖に延びる。プレート境界のため歴史も、マグニチュード(M)7〜8級の地震が繰り返し発生している。東日本大震災も日本海溝が震源域だった。内閣府の有識者会議が想定したのは、日本海溝北部の「三陸・日高沖」と、千島海溝の「十勝・根室沖」を震源域とする地震。

表だった。千島海溝モデルは北海道のみを公表した。阿モデルを合わせ、最も高い津波が想定されるのは岩手県宮古市と北海道えりも町で、最大約30メートル。本県は太平洋、津軽・平館海峡、陸奥湾、日本海に面する22市町村に津波が襲来すると想定。日本海溝モデルでは、津波は県内最大高の八戸市、階上町(21・5メートル)、おいらせ町(17・6メートル)など太平洋側で高かった。日本海側は相対的に低かったが、本県で最も低い深浦町でも2・6メートルだった。第1波到達まで最も時間が短いのは東通村(19分)で、役場庁舎などの浸水想定は県庁(深さ1・7メートル)など5カ所。最深は風間浦村の6・2メートルだった。この地震で八戸、三沢、七戸、東北、六ヶ所の5市町村で震度6強を観測するとして、内閣府によると、阿モデルともに、本県に襲来する津波の高さは東日本大震災以上と想定した。本県や他道県の原子力関連施設立地地域の津波データは示されず、内閣府は「公表には関係者との調整が必要」としている。

●駒込ダム本体工事見学会

あおもりの川を愛する会 事務局

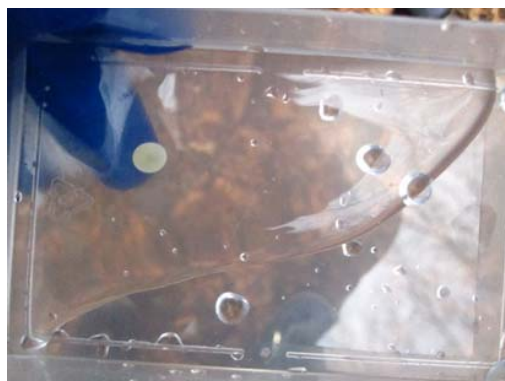
令和2年10月7日 駒込ダム建設所のご協力を頂き、「駒込ダム本体建設工事見学会」を行ないました。少しずつ進んでいました。（参加者15名）



●イワナの産卵床づくり

あおもりの川を愛する会 事務局

令和2年10月14日 蔦川の小溪流に今年で14回目になります「イワナの人工産卵床」を2ヶ所設置しました。1ヶ月後、人工産卵床の場所にイワナの卵が確認されました。（参加者20名）



確認された卵



●今年度中止・延期となった事業
あおもりの川を愛する会 事務局

令和2年度も実施を予定しておりましたが、残念ながら中止・延期となってしまった事業をお知らせします。

【中止となった事業】

- ・令和2年度 総会・講演会
- ・令和2年度 源流の地標柱建立活動
- ・令和2年度 「水辺で乾杯」水辺関心創造アクション
- ・令和2年度 河川技術講演会
- ・令和2年度 蔦川（つたがわ）清掃活動

【延期となった事業】

- ・太平洋沿岸津波講演会（当初 令和3年2月7日開催予定）



●あおもりの川を愛する会 事務局より

あおもりの川を愛する会

「あおもりの川を愛する会」は24年目を迎えることになりました。会員数は現在199名となっています。

令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、ほとんどの活動を中止せざるを得ませんでした。令和3年度は新型コロナウイルスが収束し、例年通りの活動ができることと期待しております。これからも会の活性化のため頑張っていきたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。

【事務局】 〒030-0111
青森県青森市荒川字柴田102番地1

TEL: 017-729-0922

FAX: 017-739-3561

E-mail: kon-h@nishidagumi.co.jp